大好き　かたびら

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira

令和５年２月28日
横浜市立帷子小学校
学校だよりNo.11　３月号
保土ケ谷区川辺町65-1
TEL045-335-5896

春、誰と話そう

校長　齋藤　容二

朝の冷え込みに反し、日ごと暖まる陽ざしに春の訪れを感じます。令和4年度も最後の月、3月となります。一年間、保護者・地域の皆様には本校教育活動へのご理解・ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

2月には授業参観や発表会、伝える会、懇談会等を通して、子どもたちの成果・成長を見ていただくことができました。そして今、子どもたちは一年のまとめ、次の学年への準備、6年生にとっては卒業といった大きな節目として、日々目標をもって過ごしています。

つい先日、宮田中学校ブロック3校による学校運営協議会が行われました。本校・地域からは校長、ＰＴＡ会長、学校地域コーディネーター、天王町町内会会長が参加しました。（他の2校からも同じような立場の方、及び学識経験者 2名が参加しています。）各校の取組、成果、課題等について、3校の共通課題含め意見を交わしました。

その中で、「発表への取組」「コミュニケーション力の育成」「進んで取り組む力」「地域との連携・協力」等が多く話題になりました。小中9年間の義務教育の中で、段階に応じて子どもたちを理解し、子どもとのかかわり方の改善や学校・保護者・地域三者の連携を強化することで、子どもたちのよりよい育ちへとつなげていきたいと強く感じました。

先日、本校の事務職員がこんな話をしてくれました。

「学校からの帰りに駅まで歩いていると、親子連れとすれ違い、低学年か中学年らしき子どもから挨拶されたんです。私もその保護者も誰だか分からずにぽかんとしていて、保護者が子どもに聞いたところ、『学校の人だよ。』と答えたんです。思わず『ありがとうございます。』と言ってしまいました。」

学校で子どもたちは、みんなと一緒の時や教師に促されてから大きな声で挨拶する機会が多くあります。学校は「一斉に」「揃えて」「大きいな声で」挨拶することを求める傾向があるかもしれず、今回紹介した子どものように、「自分から進んで」挨拶できる子は多くないかもしれません。ですので、本校の子が進んで挨拶できた話を聞き、とても嬉しく思いました。挨拶一つからでも、「進んで行う力」「コミュニケーションの力」「自立心」など、私たち大人が子どもたちに付けたい力の具体の姿が見えてくるように思います。

この事務職員は後から私に、
「ほっこりしました。」
と話していました。そうでした。「～の力」などと並べるより、挨拶を交わすことで人と人の心が通い、お互いが温かい気持ちになるのでした。頭も心も柔らかくありたいです。

本校川門を入ってすぐのところにあるジンチョウゲ（沈丁花）の花が咲き始めました。香りのとても強い花です。私はこの花の開花を見ると星野富弘さんの詩を思い出します。星野さんは元中学校教員で、指導中の事故で頸椎を損傷したために首から下が動かせなくなり、その後、口にくわえた筆で絵や詩をかくようになった方です。

川門近くにあるジンチョウゲ（沈丁花）

「誰にでも　やさしい言葉が
　かけられそうな　気がする
　沈丁花の香り　ただよってくる朝」　　星野　富弘

忙しい日々ですが、少し立ち止まってみると、まわりの木々、草花、帷子川に飛来する鳥、まちの人々の姿・営みなどから何かを感じられそうです。そして、春の陽気に合わせ、より多くの人と話し、心を通わせていきたいです。

子どもたちの安全のために、地域「学援隊」及びPTA安全パトロールに参加してくださった皆様、一年間ありがとうございました。イオン開店に伴い開通したT字路については、今後とも警察・イオン等関係機関と情報を共有し、児童の安全な登下校のために改善が図られるよう取り組んでいきたいと考えています。保護者・地域の皆様にも継続して関心をもっていただき、子どもたちの安全安心のためにご意見等、お力をいただければ幸いです。